

一般質問

9月
定例会

用地買収

用地買収後の対応これでよいのか

現在保留だが施工計画あり

佐賀まちづくり課長



にしむら さくお 議員
西村 策雄

查が行われている。この時に旧建設省と地権者、行政間で協議出来なかつた事を残念に思っている。

現在バイパス開通後、旧佐賀町に払い下げとなつている。またその付近の歩道沿いで崩落の危険性があり工事施工する計画だが、現在保留にしている。上の畑の連絡道は地権者と相談をして何らかの方法を取り入れたい。水道のタンクの件は、現在使用しておらず地震対策を考慮して、ピアノ線を巻く工法を取り入れて対応している。

問 佐賀の56号線の改良から、半世紀以上過ぎてている。町分の立ち退きの家と近くの畑、裏山の畑の道も切り取られ、移転先も中学校の用地となつた。

国は元の屋敷の一部を、排水路改修時、了解なしに工事をしていくが、現状で放置されるのか聞きたい。

答 中島 佐賀まちづくり課長

佐賀の国道56号線の改良は旧建設省が事業主体で施工し、該当地区は昭和53年に地籍調

水産業振興

佐賀地区への
エビ礁設置を
可能性を探りたい
町長

問

合併をすると、特例債や補助金が増額されるなど、バラ色の話が多かつた。総務省

直結の雇用促進の予算が来たが、特産品も農業、水産業も回転の速い産業を取り上げられない。伊勢エビ漁が開禁したが、築磯は、伊田、上川口に続いて灘、白浜、佐賀、鈴へも、エビ礁設置を早期に行えないか。

答

下村町長

合併の時は進むも地獄、退くも地獄と言う表現もあった。財政状況を考えると、合併して効率を図るという大きな目的があつた。特にリーマンショックで大変厳しい経済構造の中、一次産業を始め厳しい状況を余儀なくされている。そこで回転の速い農業なり漁業の発展を考え、かねてから発言もしてきている。エビ礁を佐賀にも、どの要望については、当然そういった可能性があれば措置も図っていききたい。



予算説明

広報での予算説明
はこれでよいか

町独自の様式で

本庁総務課長

問

① 3月議会で予算の施政方針と、概要の詳細な説明を求めたが執行部は町の広報で説明するとの事であつた。しかし町の広報の内容はこれでよいのか。

② 法律によって国及び市町村は、250万円以上の公共事業の発注見通しに関する事項について公表するところがあるが、町はこれをどう解釈をしているのか。

答

植田本庁総務課長

① 町の予算については、毎年当初予算の概要について、区長会や町広報5月号で、歳入歳出の主な項目別内訳、対前年度比と主な事業を、円グラフを使い、分かりやすくお伝えしている。

② 特に国は様式等について定めがないので、町独自の様式で行いたい。